



STANDARD  
TOKYO

2026年5月13日

各位

会社名 株式会社セプテーニ・ホールディングス  
代表者名 代表取締役グループ社長執行役員 神 埜 雄 一  
(東証スタンダード コード番号 4293)

## 2026年12月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、2025年12月期通期決算発表時に開示しました2026年12月期通期(2026年1月1日~2026年12月31日)の連結業績予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

なお、2026年12月期の期中に実施する剰余金配当および期末配当については、2026年4月21日に公表した内容からの変更はございません。

記

### 1. 2026年12月期通期連結業績予想(2026年1月1日~2026年12月31日)

	収益	Non-GAAP 営業利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益	基本的1株当たり 当期利益
前回発表予想(A)	百万円 32,420	百万円 4,800	百万円 4,350	円 銭 20.97
今回発表予想(B)	33,300	5,400	5,250	25.31
増減額(B-A)	+880	+600	+900	—
増減率(%)	+2.7	+12.5	+20.7	—
前期実績 (2025年12月期通期)	30,309	4,414	3,491	16.83
前期比増減率(%)	+9.9	+22.3	+50.4	—

(注) Non-GAAP 営業利益は、IFRS に基づく営業利益から、買収に伴う無形資産の償却費、M&A に伴う費用等の買収行為に関連する損益、及び減損損失、固定資産の売却損益等の一時的要因を調整した恒常的な事業の業績を測る利益指標であります。

### 2. 修正の理由

本日公表の2026年12月期第1四半期連結累計期間業績において、マーケティング・コミュニケーション事業における既存顧客との取引拡大、新規顧客獲得の寄与を中心に、マーケティング・コミュニケーション事業、ダイレクトビジネス事業、データ・ソリューション事業すべてにおいて、収益が拡大しました。さらに、これまで推進してきた構造改革の成果が結実し始めており、全社的なAI活用等を通じたコスト効率化と生産性の向上が順調に進捗したことで、営業利益率が大きく向上しました。加えて、持分法投資利益等の拡大も貢献し、親会社の所有者に帰属する四半期利益も大きく伸長しました。

これらの結果、主に第1四半期における Non-GAAP 営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益の大幅な成長と足元の状況を踏まえ、2025年12月期通期決算発表時点での業績予想を上振れる見通しとなりましたので、通期の業績予想を上方修正いたします。

今回の修正により、2026年2月に公表した中期経営計画のなかで2027年12月期の目標としていた、Non-GAAP 営業利益54億円について、1年前倒しでの達成を見込んでおります。

2026年下期の業績見通しにつきましては、世界情勢をはじめとしたマクロ環境の不透明感に起因する、当社業績への直接的な影響は現時点で見込んでおりません。一方、景気減退や消費動向の悪化などによる広告市場全体への間接的影響が生じる可能性を鑑み、現時点では保守的な前提を置いております。

引き続き、足元の事業成長に向けた、筋肉質な事業基盤の構築による収益性、生産性の向上のための取組みを進めながら、「VISION 2030」の達成と中長期での事業成長を見据えた各種施策の実行・推進に努めてまいります。

なお、中期経営計画（FY2026-FY2028）における3カ年の数値目標の修正についても、今後のマクロ動向や事業進捗を精査した上で適宜検討を進めており、公表すべき事項が生じた場合には速やかに開示いたします。

（ご注意）

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により上記予想数値と異なる場合があります。

以 上

■本件に関するお問合せ先

CEOオフィス コーポレートコミュニケーション部 IR・SR課 E-mail: ir@septeni-holdings.co.jp